

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101040		
法人名	岡山県医療生活協同組合		
事業所名	グループホーム 福浜		
所在地	岡山県岡山市福富中2丁目8-10		
自己評価作成日	平成28年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成28年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の隣接している通所介護事業所での行事に参加し、地域組合員のボランティアとの交流も図っている。  
 事業所理念である ○利用者にとっての一瞬、一日と言う時間を大切にす ○ニーズに応え、利用者本位の生活が送れるよう支援する ○全職員同じ目線で利用者と接する事を旨とするのもと、法人内医療機関、訪問看護との連携により安心して生活を送っていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは2011年10月1日に開設し5年目を迎えている。ここに来て1年半が経つというホーム長からは「法人内に医療機関があるので医療的な連携が強く利用者・家族は安心して、職員も安心して仕事ができる。これからは、職員からケア方針や運営について『ああしたい、こうしたい』との意見がどんどん出てくれるようになれば良い。家族も巻き込んでつながりを強化したい」との話があった。この法人はISO規格を取得している。理念そのものもそうであろうがホーム自体もISOの指針に沿って職場目標を設定しており、さらに、職場目標達成のために職員個人個人に達成目標を作成させている。これは、利用者毎の支援体制と内容を共有して、質の高いケアを提供し利用者の満足度を得るための方策である。ここに来てまだ日が浅いという職員は「統一したケア方針の指導を受けることができるので自分のする仕事に分かりやすい」と話してくれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1年毎に事業所目標を作成し、それに基づいて個々に目標を立て年間3回以上の面談を実施。日々の業務中や職場会議でも共有している。	3項目の事業理念に基づき、年間の1項目の「職場の目標」が決められる。そして、職員は職場のケアの目標を達成するために個人目標を設定し「振り返りシート」により達成度を自己採点しておりケアのスキルアップを目指している。	運営法人がISO規格を取得しておりISOの基準により職員全員が一人の利用者に対し同じ支援・質の高いケアが出来ることを目的としているものと思う。そのためにカンファレンスの充実にさらに努力して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、情報収集できるようにしている。隣接しているデイサービスの行事への参加、グループホームの行事での地域のボランティアの参加を通じ交流している。	立地が住宅街の真ん中にあり、日常の向こう3軒両隣のつきあいは密接ではないが、町内会に参加しており「地域住民」としての役割は果たしている。3ヶ月に1回、地域住民に対し介護・福祉の研修会を開催している。中学生の職場体験も受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて地域のボランティアさんとの交流をしたり、グループホーム内での出来事の報告を運営推進会議等で共有し、改善方法等意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を職場会議で検討しサービス向上につながるよう努めているが、成果としてはまだ不十分である。	隣接のデーサービスと共同で運営推進会議を開催している。地元だけでなく、近隣2地区の地域の有志の参加がある。ホームの行事や運営状況の報告をし、参加者から地区の情報を得ている。	現在のところ、市役所や地域包括支援センターからの会議への参加がないのは残念である。新年度からは会議の年間スケジュールを決めて市や包括に早めに働きかけてはどうだろう。年に何回かはホームの行事に合わせて会議を開催しホームを見てもらうのも良いと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡、協力関係は十分でない。生活保護の方については福祉事務所の方のお世話になっている。	生活保護を受けている利用者が複数おり、福祉事務所との連絡・相談を密にしており協力関係にある。市や包括支援センターの関係強化に取り組もうとしているところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を開催し、内容については職場会議で共有している。	身体拘束に関するマニュアルを作成している。拘束防止委員会では、平素から利用者の状態改善を図れば拘束のない支援が出来ると考え、転倒防止対策も検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防委員会を開催し、日常的に注意している。職場での学習会も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度について学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から十分な説明を重ね、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情窓口を管理者とし、ご意見箱の設置をしている。日常的に電話や面会時にも意見を伺っている。	家族に対してご意見箱を設置し、苦情対応に当たる準備をしているが家族からの苦情や要望はない。来訪する家族からは要望を聞く努力をしているが「お任せ」との返事が多い。ケアプランを立てるときには事前に家族に連絡し要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に聞いているが毎月の職場会議や面談時にも聞き、運営に反映させている。	職場会議では職員から意見が出ており、具体的な意見については運営に反映させている。ホーム長は職員がこうしたいという意見がどんどん出ることを望んでいる。	会議や個人面談で面と向かって意見を言うことは勇気があることなので言いたいことを言えない職員もいると思う。記名・無記名は別にして半年に1回は職員に意見を文書で出してもらってはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働組合もあり、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際と力量を把握し、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に学習会を行うなど交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に困り事や不安を伺い、安心して生活できるよう配慮したり、入居当初は特に頻繁に声掛けもしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事、不安な事、要望については面接時から伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の必要としている支援を見極め、計画作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りや共に行う生活リハビリを通じ関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前隣接するデイサービスを利用されていた方々もおられ、デイサービスでの行事に参加したり、近所の方からの電話や面会に対応しています。	利用者が広域にわたっており、馴染みの人の来訪は少ない。散歩や買い物の機会に出会う近所の人と出来るだけ会話を交わすようにしている。ホームの行事や地域の行事を通じての交流はある。ボランティアで地域の人が多く居ることは心強い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協同作業や活動を通じ、利用者同士の関係性を把握するよう努め支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在行っている退去後の支援は行っていないが、必要あれば支援します。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向の把握に努めている。	理念の1項目にあるようにホームでは出来るだけ利用者のニーズに応え利用者本位の生活が送れるよう支援している。利用者担当を決めており、会話により本人の意向や希望の把握に努めている。	介護記録が状態記録になっている。もう少し、日常生活での利用者の言動を記録して情報を共有すればカンファレンス等で利用者の思いや意向が把握出来やすくなると思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や家族、ケアマネージャーに経過把握の協力をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に担当職員を付け、モニタリングやアセスメントを実施し、全体で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心とし、情報収集後ケアカンファレンスで話し合い計画作成している。	職員による利用者担当制を敷いている。利用者担当の仕事として担当している利用者のカンファレンス、モニタリング、アセスメントを中心に行っている。日頃のそれらの結果に基づいて、さらに事前に家族の意見も聞いて計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング結果を共有し、カンファレンスで情報共有後に計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主に隣接しているデイサービスや地域のボランティアの方々の協力のもと施設内で孤立しないよう楽しむ事を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に受診が継続できるように支援している。	眼科とか整形外科は利用者の昔からの掛かりつけを医院を利用しているが、その他は、運営母体の病院の全面的な協力がある。月2回の定期往診があり夜間対応も万全である。歯科往診もあり、利用者・家族とも安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には報告や相談を行い、月に1回連携カンファレンスを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、相談室との情報交換を行っており、必要時にはカンファレンスを開いてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所に出来る事を十分に説明し、関係者とも話し合いながら支援に取り組んでいる。	過去3度のホームでの看取り例がある。重篤状態になった場合は協力医院の医師と相談し、家族の意向により希望があればホームでの看取りを行う体制作りをしており、日頃から看取りの学習に力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人学習会や職場学習会を利用し、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		ホーム長はホームの防火管理者としての訓練(講習)を受けている。近く、消防署の施設点検を受ける予定である。また、消防署立会いのもと実際に消火器を使用した訓練も計画している。災害時の避難訓練もしているが、職員やボランティアが近所に住んでいるので心強い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用していただいている」事を常に考え、失礼のない言葉掛けや対応を心掛けている。	運営母体の倫理綱領の第一項に「人権を尊重し、共同の営みをする」と掲げてある。職員全員、まず、利用者の名前を呼び、お願いや誘導の丁寧な言葉遣いをしているし、支援の所作も優しい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で思いや希望の聞き取りをし、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合優先ではなく希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう可能な方と一緒に準備や片付け、食事をしている。	食材・メニューは業者搬入、それにホームで炊いたご飯と汁物を配膳する。利用者の要望があれば、業者の搬入を止めて利用者希望の食事を職員が作る。「デザートを最初からお膳に載せてしまうと、それを先に食べて味が変わって食事が進まなくなるのでデザートは食事が終ってから出す」との職員のきめ細かい配慮もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の変更や水分摂取量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者によってはポータブルトイレの使用やパッド使用があるが、トイレでの排泄を基本として定時誘導や随時誘導に努めている。トイレは廊下に面して3ヶ所ある。kotマイナスを細かく記録しておりマイナスが3日続くと薬による排便を図り、利用者の体調管理に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴していただけるようご希望を聞きながら体調や気分により支援をしている。	一日おきに一人大体30分の入浴を実施している。入浴中は1対1の会話を心がけるとともに、全身のチェックをしている。特に、皮膚のトラブルには気を付けている。入浴拒否の人を入浴誘導した苦労話の記録が残っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に沿って戸外に出掛けられるよう支援に努めている。	天気の良い日は外での散歩をしている。個人外出は「あの人は、この間外出したのに私は連れて行ってもらえてない」との言葉が、かつてあったので希望者全員に公平に外出してもらっている。利用者担当者がその利用者と食事外出することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談の上、希望や力に応じてお金を所持したり使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の電話の取り次ぎや手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がないように配慮し、季節感を取り入れて居心地良く過ごせるよう配慮している。	リビングや廊下は明るく程よい広さなので利用者が動き易い。「ある利用者が廊下を何回も往復している姿をリビングに座って見ている別の利用者が『私も歩こう』歩き出した」との記録を見たが廊下には何の障害物もなく動き易くなっている。	動き易い空間ではあるが展示物が少なく少し殺風景な気がしないでもない。鬼の面や梅に鶯の展示物はあったが、もっと多くの作品や誕生会・ドライブ等の写真を皆が見える所に展示すれば職員と利用者の話の種にもなり作品は利用者の意欲や活気を生み出すと思われるが・・・
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	室内はシンプルな部屋が多く、室内での躓きによる転倒事故は少ないと思われる。仏壇を祀ってある部屋もある。家族の写真や手紙を貼ってある部屋もある。シンプルではあるが本人にとっては居心地が良い部屋であるとの感じがした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの「出来る事」「わかる事」を活かして安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		